

夏季休業中のタブレット P C 活用(持ち帰り・家庭学習)について

伊賀市教育委員会事務局学校教育課

・ 1 学期の持ち帰り学習の実施状況

ほぼ毎日・・・・・・・・・・ 21 校 (R6 は 19 校)
 週 3 回以上・・・・・・・・・・ 3 校 (R6 は 2 校)
 週 1 回以上・・・・・・・・・・ 2 校 (R6 は 5 校)
 月 1 回以上・・・・・・・・・・ 2 校 (R6 は 2 校)

・ 1 学期に児童生徒が意欲的に取組めた課題例や課題提示の方法

小学校

- ・ 授業のふりかえりや疑問を家でじっくり振り返ることで、シームレスな学びをつくる。またそれを共有することで、協働的な学びをつくり、子ども発信の学び（主体的な学び）となる。
- ・ 動画を撮って提出したり、音読を記録して自分の読み方を振り返ったりする児童がいた。自分の様子を客観的に見て、力が向上したと実感している児童もいた。
- ・ 子どもたち同士で問題を作って解き合ったり、考えを交流して友だちと比較して説明したりすることで意欲的に取り組むことができた。

中学校

- ・ 授業の振り返りをロイロノートの提出箱に提出させる際、回答共有をすることで、他の生徒の意見を参考にすることができ、よりよい気づきなどが得られることがある。
- ・ ICT を活用することで、実技教科で自身の姿を動画にして確認したり、観察実験などの成長過程や結果を記録したり、振り返りながら考えることができています。

・ 活用(家庭学習)の内容

小学校【ロイロノート】

- ・ 夏休みの様子を毎週ロイロノートで提出。ロイロノートで近況報告。
- ・ 休み中に読んだ本の写真をロイロノートでその都度提出させた。おすすめの本の紹介。
- ・ 俳句を考え、文字とイラストや写真を使って表現したものをロイロノートで提出し、2 学期に鑑賞会をした。
- ・ 学校のヒマワリの成長の様子をロイロノートで送り、コメントを求めた。
- ・ 出勤した日にロイロノートの課題を点検して都度返却したので、夏休み明けの負担が少なかった。

中学校【ロイロノート】

- ・ 課題をロイロで提出。課題の答え・解説をロイロノートで配信。
- ・ 社会科で夏休み期間の新聞やテレビのニュースで、気になったものをロイロノートにまとめて提出させ、夏休み明けに発表させた。
- ・ 体育科でダンスの動画をロイロノートで送り、音楽科では文化祭の合唱のパート別の音源をロイロノートで送り、長期休暇中に取り組ませた。
- ・ ロイロノートの資料箱で、学習に使える HP の紹介

成 果 学びの連続性・意欲向上

- ・夏休みの思い出を電子黒板に映し、画像をもとに子どもが自分の思い出を発表することで視覚的にも分かりやすい発表にできた。
- ・実技教科での課題をロイロノートで送ることにより、生徒がじっくりと取り組むことができ、2学期の取り組みにつなげることができた。また生徒同士で時間を合わせ、課題に取り組んでいる様子があり、生徒同士のつながりが深まった。
- ・解答を共有していたため、友だちが提出したものに反応する児童の姿が見られ、互いの様子を知り合うことができた。
- ・ロイロノートを使って、宿題でわからないところを教師に聞くことが容易となり、子どもと教師のやり取りのツールの一つになった。
- ・eライブラリで課題を設定したことで、出題された課題以外にも苦手な分野、内容を自ら復習し取り組むことができています。また、学習習慣が定着していない生徒も取り組みやすく、解説などを読みながら進めることができた。

教師側

- ・児童の夏休み中の学習の進み具合や体調の様子などを知ることができた。
- ・2学期始業式までに提出期限を設定することで、作品や課題をしっかりとチェックする時間が確保でき、余裕をもって2学期スタートできた。
- ・夏休みの課題を用意する際に、大量にプリントを刷る手間がなく、時間の削減につながった。

課 題 活用・個人差

- ・夏季休業中のタブレットでの家庭学習を実施したが、2学期が始まって継続してタブレットでの家庭学習の充実を進める必要がある。音読やeライブラリなど、2学期が始まって継続可能であるものは継続して出していく。
- ・タブレットの機能を十分に活用することができていない生徒もあり、課題を進めることができない場合があったので、普段の授業から活用することができるようになっていく必要があることを感じました。
- ・意欲的に取り組む子とそうでない子の差が出る。(気になる子ほど、取り組みにくい)
- ・どこまで個の力で解いているのか把握しづらい。

ルールの徹底

- ・タブレットPCだけではなく、ICT機器の節度ある使い方(時間)、情報モラル教育を再度学校で行っていきたい。
- ・家庭での使用方法や使用時間を把握することが難しい。

不具合・手間

- ・再起動で解決する不具合の問い合わせがいくつかあった。また、カメラが使用できないという問い合わせがあり、タブレットを学校に持ってきてもらい教職員が対応した。

保護者の協力

- ・課題がデータであるので、親が子どもの宿題の進行状況の把握が難しい。よって声掛けが期待できない。
- ・タブレットの使用が各家庭まかせになるので、個人差が出てしまう。主体的に進めていく教材ややり方を考えていく必要がある。